

原子力学会**2021**年秋の大会 標準委員会企画セッション

標準委員会の基本方針と今後の戦略について

本セッションの目的と論点

2021年9月10日

座長 関村直人（東京大学）

背景となる関連キーワード

- ◆標準委員会は1999年の発足。現在、62の標準、5つの英語版標準、そして10の技術レポートを発行。
- ◆新しい検査制度の本格開始、及びCAPやリスク情報活用などによる事業者の継続的安全性向上の取り組み
- ◆IAEA SAFETY STANDARDSが策定戦略に従い体系的に整備されていること
- ◆学協会連携の規格・標準（例 リスク情報活用を含めた耐震技術規程の改定検討）の必要性が向上していること
- ◆学協会規格、規制のガイド、民間ガイドライン（ATENA、JANSI、NRRC）
- ◆原子力関連学協会規格類協議会は学協会規格策定活動の一層の強化に関するステートメントを2回（2012年、2018年）発信

セッションの目的

- ◆本セッションでは、標準委員会と事業者の視点から標準活動に関する課題を挙げ、その解決への取り組み方針を述べている。
- ◆原子力学会標準委員会は、基盤となる基本方針、共通的基本的な規範を策定することも含めて「標準」としている。この考えは、規格標準の体系構造に留まるものでなく、原子力の安全性向上を継続的に行う諸活動の「基盤」となる。
- ◆そこで整合の取れた規格基準体系に基づいた活動を目指すために、標準委員会、ステークホルダー全体の取り組み方針について議論。

セッションの論点

学協会規格類協議会のステートメント「原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化」（2018年）の規格策定化活動強化のポイントを踏まえて、標準委員会を含めたステークホルダー全体が、今後、取り組むべきことは何か？

